

① 仏間の教育に多大な貢献をした人に与えられるフランスの「教育功労賞」が、経済学部教授・佐藤清先生に贈られることになり、その叙勲式が6月1日、フランス大使館で行われた。

佐藤先生が受けられたのは「教育功労賞シュバリエ（騎士）」という勲章。叙勲式は当初6時開始のはず



仏大使から勲章を受ける佐藤先生

だったが、田中外相から各国大使に招集されるという「アクシデント」が発生したため、30分遅れて始まることになった。大使館は南麻布のいかにも由緒ありそうな場所にあり、庭園には日本調の石が置いてあったり、ロビーには書道の掛け軸やセンスのよい屏風があったりして、グルドー・モントーニュ駐日大使がい

不安は見事の中したのである。誇り高きフランス人気質がそうさせるのか、式は叙勲者代表のあいさつを除き、すべてがフランス語で進められた。予想もしなかった展開に一瞬、私は取材を引き受けたことを後悔したが、その後のパーティーで、フランスに留学経験のある大学院生たちが「大使はこん

## 佐藤清先生に 仏大使が叙勲

### 日仏間の 教育に貢献

に日本に親しみを持っているかがうかがえた。それだけではなく、大使ご自身の流暢な日本語からも、それは十分うかがえた。

② 学院生2人に同行した私は式が始まる前、こういう情景を見て歩いているうちは、取材の緊張も多少ほぐれたが、周囲を飛び交うフランス語に次第に不安な気持ちになつてきて、どこへ行くにも、2人の大学院生の後ろにくっついて行動している自分に気がついた。

なことをいつていたよ」と、印象に残った話をいくつか教えてくれた。こんな姿の自分がみじめだったが、そんなことはいってられない。とにかく一生懸命、メモを取った。

そのなかで興味深かった話に「世界では英語が共通語とされ、英語圏の人がいばっているようだが、英語を母国語としないフランスと日本は力を合わせて頑張らなくてはいけない」という発言があったということだった。

③ 藤先生は97年4月から2000年3月までの間、国際交流センターの所長を務められて以来、先生が中心となってフランスと中央大学の交流が盛んになっていった。具体的には両国の学生の育英をはじめ、前仏大使と現仏大使の講演会を開いたり、エクス・マルセイユ第III大学と学生交換協定20周年記念式典を行うなど、両国の教育に多大な貢献をし、その活動に大使叙勲されたものだった。

式のと、月桂樹をモチーフとした勲章を胸に下げた佐藤先生に話さうかがった。先生が中大とフランスの交流を進めてこられた原動力は、先生がフランスを好きだということ。はもちろん、先生の生き甲斐にもある。それは自分の教え子の成長を手助けすることであり、「愛をもって成す」ことが大切であるようだ。これらのコメントは、今回の叙勲がいかに先生にふさわしかった。最後に先生は「これからも惜しみなく、日仏間の交流に力を注ぎたい」とおっしゃった。佐藤先生、このたびの叙勲、本当におめでとございませした。（学生記者・柿元 理榮）